

日販連通信

第 45 号
2012 年 5 月 12 日 発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会
中塚 敏春

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

茨城県やさと農協で甚大な雹害

手裏剣(しゅりけん)の形、ソフトボールの大きさ

推定被害総額 2 億円



5月10日に本会中村職員がやさと農協を訪問し、川井組合長・鈴木部長・井坂課長・菊地課長代理に対応していただきました。被害に会われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

6日にはやさと農協に竜巻の通過こそ無かったものの、農協管内の中央北部よりを幅300m～500mで小幡(おばた)地区より東の園部(そのべ)、真家(まいえ)地区までの間で6日午後1時過ぎに「雹(ひょう)害」が発生しました。

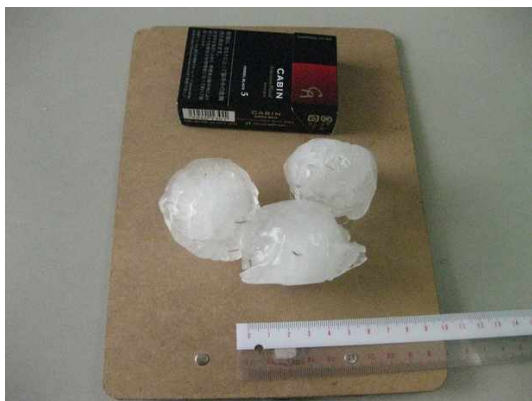
今回降った雹の大きさは地元新聞では7cm位とありますが、実際に畑ではクレーターの跡のようにくぼみができて、ソフトボールぐらいの大きな穴が見られました。雹害に備えてガラスを厚く(4mm)したガラスハウスでさえも割れる甚大な被害が出ています。また自動車のフロントガラスも割れ、ボンネットはボコボコになったと言います。雹の降り始めは回りにギザギザもついていて、スレート板の屋根を打ち抜く威力をもっていました。



手裏剣状の飲料缶の大きさの雹



ソフトボールの大きさのクレーター状の跡



タバコの箱の大きさ



降り積もった特大の雹

被害作物はチューリップ、梅、梨、柿、レタス、ぶどうなど10種類以上に及びました。やさと農協管内では被害総額が推定1億9千万円になる見込みで、柿、梨の被害はもっとも大きく、特に梨は8000万円位の被害となり、生産高4億円のうち20%に及ぶ見込みです。

幸い人的被害が出なかったのは雹が小さいうちに軒下なり家の中に非難できたことで、大粒の雹の時には出れる状態ではなかったためではないかと言います。鈴木部長の息子さんのハウス(トルコキキョウ)は被害の大きかった真家地区から若干西側の瓦会(かわらい)地区にありますが、それでも1000万円規模の大きな被害を受けました。水田に関しては70%位が田植えを終わっていて、直接的な被害はそれほどみられないものの、雹が直接当たった水田ではソフトボールぐらいの大きさにへこんだ状態も散見されました。また被害の大きい園部地区は献上柿の地域でもあり、新芽がやられて被害が心配だという話もしていました。

本会では雹害の見舞金を届け、川井組合長に被害状況についての説明をうけました。

「当日は、つくば市の竜巻によるゴミ類が、小幡地区、やさと農協本所付近にもふってきた。中には家の権利書などの貴重品もあった。今回の雹は氷に黒いゴミがついていて竜巻によるゴミと合わさって氷を形成したと思われる。農家の共済保険加入は1割位で、ほとんどの農家は加入していない状況だ。これほどの雹害は予

想していなかった。

農協として、自己資金も含め対応を検討するが、1億円以上の資金が必要ではないか」と語っています。

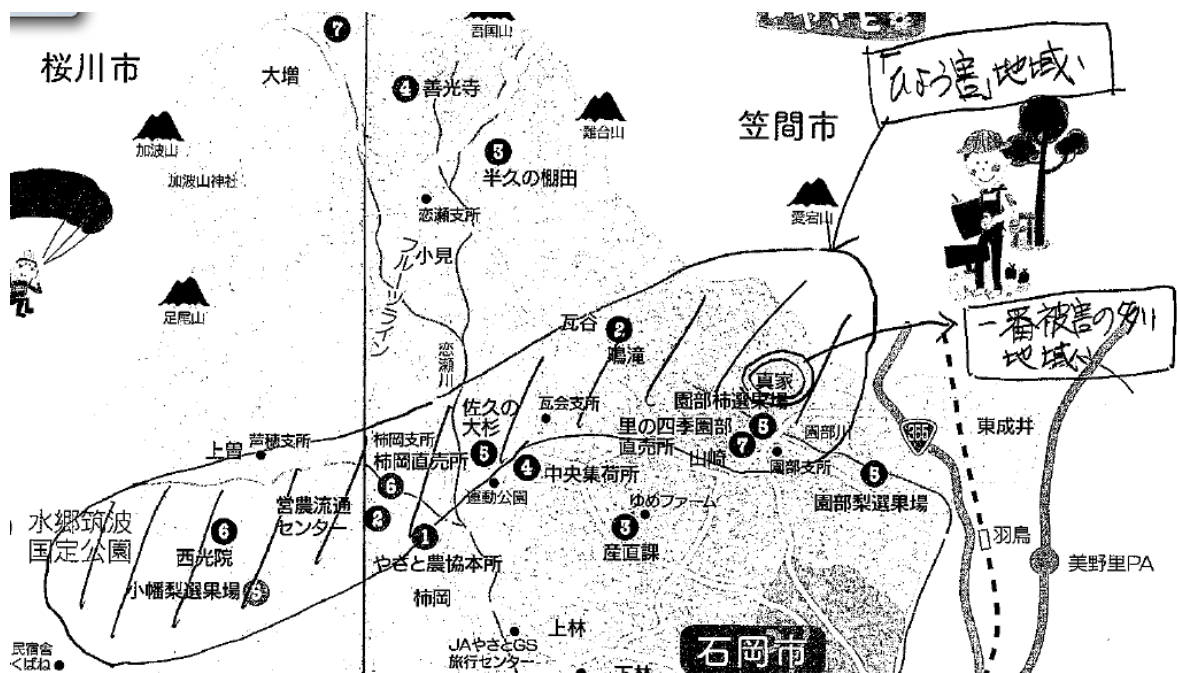
【主な被害状況】

5月10日現在

主な被害作物	作付面積に対する被害面積の割合
さやえんどう	20%
長なす	20%
いちご	4%
梅	40%
梨(小幡地区)	30%
梨(園部地区)	10%
柿(小幡地区)	30%
柿(園部地区)	40~50%
そらまめ	10%
キウイフルーツ	30%
小松菜	50%
レタス(一般慣行)	10%
レタス(有機)	30%
リーフレタス	20%
ぶどう	43%

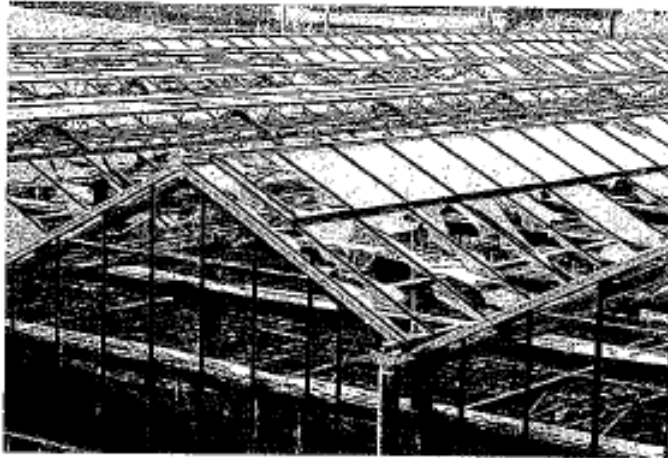
施設	被害規模
バラ、きゅうり、花卉のハウス	50160 m ²

【被害地域】



ハウスなど損壊

石岡・八郷地区 6日の降ひょう7センチ



降ひょうでガラスが割れたチューリップのハウス＝石岡市真家

つくば市を中心に甚だしい区同市真家などでは大な被害を及ぼした6日の降ひょう、竜巻・突風。石岡市旧八郷地区

ガラスハウスの屋根が損壊するなどの被害があった。

石岡市農政課による

と、同市の農業被害は7日の速報値で約1億9千万円。全て降ひょうによる被害だった。

内訳は農作物被害が8140万円。施設被害が1億774万円。農作物では、ナシやウメ、キウイフルーツ、収穫前の長ナスなどに傷がつくなどした。

中でも、同市小幡、吉生、柿岡、真家などの地域では「いざよいぶしぐらい」の大粒の降ひょうがあった。

石岡市真家、キュウリ農家、土師治一さん(60)方では、ビニールハウス計6500平方メートルが破損した。ひょうは、ビニールを突き抜けて収穫前のキュウリに傷がつくなどした。

ひょうが降ったのは6日午後1時すぎ。土師さんは「最初は小粒だったが、2〜3分間にわたり、7センチくらいにわたって降った。完全にビニールを抜けてしまった」と振り返った。破損したハウスをそのままにできず、

「張り替えるしかない。被害額は1200万円にもなる」とため息をついた。

チューリップを生産する同所、長谷川正さ

ん(70)方では、約1500平方メートルのガラスハウスの厚さ4センチの屋根の大部分が割れた。収穫後でハウス内に花はなかったが、栽培に使うプラスチックトレイが破損した。

長谷川さんは「ピンポン玉ぐらいのひょうなら、ガラスが割れることはないが、今回だけは耐えられなかったようだ」と話した。

息子の正博さん(44)は「昨年は、震災で出荷が盛んな3月に花が売れず、その後は原発事故の風評被害で売り上げが落ちた。やっと戻ってきたところだったのに、悔しい」と、残念そうに話した。

(平野有紀)

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp